

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

研究主題

自らの考えを伝え合い協同で課題の解決を図る言語活動の充実
～思考力・判断力・表現力を高める話し合い活動～

(1) 研究主題設定の理由

昨年度、本校では「自らの考えを伝え合い協同で課題の解決をはかる言語活動の充実～思考力を深める話し合い活動～」の課題のもと、学習形態、指導方法、基礎的基本的な知識について研究を進めてきた。昨年度の研究の成果は次のとおりである。

- ①言語活動を行うにあたっては、その活動の目標を明確にすることが大切であること。学習形態は、活動目標に沿ったアプローチの方法であること。
- ②誤答は生徒の思考の現れであり、違いを共有化することで、思考が深まること。
- ③生徒の知識・技能は、同じ時期や方法で習得されているわけではなく、その背景には、固有の発達段階や生活経験があること。

しかし、思考のような顕在化しないものをどのように見取るのか、そして、どのように評価していくのかということが課題として残った。また、生徒の意識調査では、相変わらず発表・発言に躊躇する姿が見られた。話し合い活動をさらに充実させ、思考力・判断力・表現力を総合的にとらえて指導の工夫をしていくことが必要であろう。以上のような考えのもと研究主題を設定した。

2 研究計画

(1) 学校課題の研究によって目指す生徒像

「多様な考えに触れ、様々な考え方をつなぎ、響き合う生徒」

話し合い活動を通して、様々な考え方と出会い、自分の考えと擦り合わせたり、異なる考え方をつなぎ合わせたりすることでより思考が深まり、表現力が高まるであろう。単に自己主張するだけではなく、お互いが聞き合える関係を築いて行くことが大切であると考え、上のような生徒像を設定した。

(2) 研究の目的

学校課題に基づいて、主に以下の3点について、実践や検証をすることで、今後の指導に資することを目的とする。

- ①思考力・判断力・表現力を高める指導過程
- ②思考力・判断力・表現力の評価の仕方
- ③生徒の意識調査

(3) 研究の方法及び計画

- ①生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、『話し合い』『学び合い』などの場面を授業に取り入れる。
- ②『言語活動』に関する研究授業・授業研究会を実施する。
5月22日・12月25日 道徳を語る会
9月18日 道徳・学活（要請訪問）
11月27日 国語・社会・英語（S&U コラボ事業・要請訪問）
12月20日 数学・理科・音楽（S&U コラボ事業・要請訪問）
- ③12月生徒意識調査・教科部会で研究報告の作成

3 研究内容

(1) 思考力・判断力・表現力を高める指導過程について

各先生方の実践から、多くの知見を得ることができた。以下にその一部を紹介する。具体的な方法については、自校で研究集録を作成し、研究報告を掲載した。

- ・生徒は必要な知識・技能の定着が必要。教師は生徒の学習状況を見取り、その状況に応じて必要な指導を加えていくことが大切。【国語】
- ・目的が達成できる最適なグループをその都度考えてよいであろう。【国語】
- ・生徒に対する問いかけの工夫が必要。【社会】
- ・小学校での既習や生活学習体験上有している知識や技能、興味や関心等を分析しておき授業中にフィードバックしたりしながら、「活用」していくことで深化していく。【社会】
- ・地球儀と地図を見比べる。写真やデータ・グラフを多く取り扱う。考えを記述させる。【社会】
- ・常に「どんな知識を利用したのか?」「なぜそう解決できるのか?」確認する。【数学】
- ・ホワイトボードを利用して、多様な考えを比較する。【数学・理科】 音で表現する。【音楽】
- ・考えをまとめる。実際に切ったり、貼ったりする活動を取り入れる。【数学】
- ・教師がすべてをコントロールすることは難しく、教師中心では生徒の学びは少ない。【英語】
- ・誤りを認められる雰囲気作り。【英語】 ・表現を通して、足りない知識に気づく。【英語】
- ・体験活動を多く取り入れる。自ら感動した体験がなければ脳が活性化されない。【特別支援】

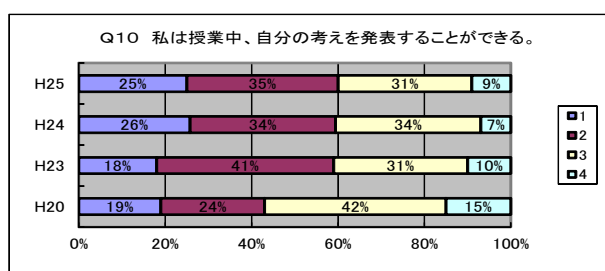
生徒は、何も知らない存在ではなく、生活経験を通して様々な知識や技能を持っている。生徒を理解するために、今後、小学校との連携も必要とされてくるだろう。

(2) 思考力・判断力・表現力を高める評価の仕方について

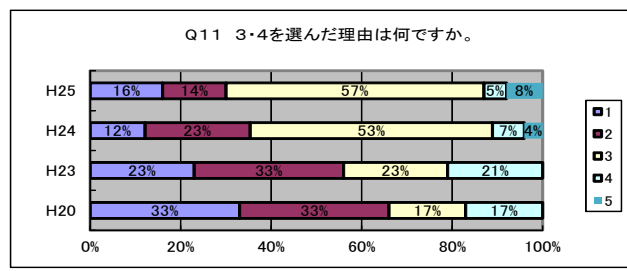
- ・振り返りの大切さ。【国語・社会】 ・発言の背景を読み解く。【社会】
- ・毎授業時間に自己評価をし、それを分析する。【社会】 ・ビデオによる記録。【英語】
- ・定期テストに記述式の問題を設定する。【数学】 ・ループリックの作成。【技術・家庭】
- ・自己評価を多く取り入れる。【美術】 頭で分かっているてもできないこともある。【保体】

ほとんどの教科が、自己評価の重要性をあげていた。生徒の自己評価を通して、授業の改善につながっていく。しかし、評価規準の設定が難しく思われた。

(3) 生徒の意識調査から



1 思う 2 どちらかというと思う
3 どちらかというと思わない 4 思わない



1 恥ずかしいから 2 間違っていたらこわいから
3 自分は勉強ができないと思う 4・5 その他

4 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

生徒意識調査では、「授業で表現や創作活動を通して、思考が深まったり、知識が増えたと思う」という問いに対して97%の生徒が「思う」と回答していた。教員意識調査においても、言語活動に慣れるとともに、意識が高まっている。今後も、言語活動を推進していきたい。

(2) 今後の課題

生徒意識調査から、自己肯定感、自己有用感などに課題が見られた。生徒の意欲を高める指導とともに、評価のあり方などについても研究を深めていく必要があると考える。